

JFM
たごより

Vol.06
Summer 2013

今号の表紙

岡山県新見市

JFMトピックス	P1
自治体ファイナンスよもやま話	P3
地方支援ダイアリー	P5
基金運用ひとくちメモ	P7
がんばる公営競技	P9
融資の実(今号の表紙)	P11
人事交流日記	P14
私たちもJFM買っています	P15
JFMからのお知らせ	P15



絹掛の滝

地方の、地方による、地方のための



地方公共団体金融機構
Japan Finance Organization for Municipalities

地方金融状況調査で 皆様の自治体を訪問します

JFMでは、資金をお借りいただいている地方公共団体を訪問して、「地方金融状況調査」を実施しています。調査では、貸付金の使用状況や貸付事業の実施状況を確認させていただきますが、あわせて自治体の皆様のご要望やニーズをお聞きします。

Q
調査の
対象団体は?

- ・機構資金の借入残高がある自治体におうかがいします。
- ・都道府県・指定都市は3年に1回、
市区町村は4年に1回のサイクルで実施しています。



Q
東京からJFMの
職員が来るの?

- ・都道府県・指定都市と借入件数が多い市区町村にはJFMの職員が
おうかがいします(直接調査)。
- ・その他の市区町村の調査は都道府県の市町村担当課に
お願いしています(委託調査)。



平成24年度の直接調査は7月から12月にかけて39都道府県の79団体で実施しました。平成25年度については、6月下旬頃までに対象の団体を決定し、通知する予定です。

①使途状況調査

内容
貸付金の使用状況、
事業の実施状況の確認

②財政状況調査

内容
財政状況、公営企業の
経営状況等の確認

③融資ニーズ調査

内容
JFMの融資業務への
要望・ニーズ等の把握

④地方支援PR

内容
地方支援業務のPRと
要望・ニーズ等の把握

※1:都道府県に委託する「委託調査」では①のみを実施します。 ※2:調査の内容は実施年度によって多少変わる場合があります。

POINT!

調査時にお伺いしたご要望・ニーズは、できるかぎりJFMの業務に反映させています!

平成25年度の地方支援業務を充実させました。



4月に人事異動で着任した地方債担当職員向けの研修があつたらしいな…

▶ 25年4月に兵庫県・福島県の2会場で「資金調達入門研修」を初めて開催しました!



低金利が続く昨今、効率的な資金運用を行いたいけれど…

▶ JIAMとの共催研修を2泊3日から3泊4日に拡大し、資金運用のコマを充実しました!

詳しくは▶「JFMだより Vol.5」のP3~4をご覧ください

また、平成24年度には東日本大震災の被災地を訪問し、被災繰上償還・借換債の相談をお受けし、訪問したすべての団体に制度をご利用いただきました。

○ 地方金融状況調査の流れ（直接調査）

※標準的な流れです。実際は若干異なる場合があります。

1

はじめに、調査員全員で団体の財政運営の状況などについて話をうかがいます。皆様と率直な意見交換をしたいと思っております。

ご意見、ご要望、ご不満等どしどしお出しください。

→ 所要時間：45分から60分程度



2

次に、貸付金の使途状況調査とその他の調査を2班に分かれて行います。使途状況調査では、貸付金の使用状況や事業の実施状況を契約書や会計書類等の書面で確認します。

会場には指定した貸付事業の関係書類だけをご準備いただければ結構です。

→ 所要時間：60分から90分程度



3

現地調査を実施して、工事個所や工事内容を確認させていただきます。

→ 所要時間は会場からの距離等により異なりますが、60分以内を目安としています。



皆様にとって「よりよいJFM」になることを目指していますので、ご意見をどしどしお聞かせください！

地方金融状況調査に関するお問い合わせは融資管理課まで

融資管理課 03-3539-2843

かかみがはら
岐阜県各務原市
取組を各務原市財政課の皆さんに
ご紹介していただきます!

自治体ファイナンス・アドバイザー

堀内 聰



自らの自治体にとっての「より良い資金調達」を実現していくには、「自らの現状を知ること」、「自ら考え、自ら行動すること」、「金融機関との円滑なコミュニケーション」がポイントとなります。今回は、この3つのポイントを踏まえた岐阜県各務原市の取組「カイゼン活動」をご紹介します。

各務原市財政課
皆さん



執筆者の村瀬さん



各務原市の紹介

岐阜県の南部、濃尾平野の最北端に位置し、市域の南には大河木曽川が悠々と流れるなど地勢に富んでおり、新境川沿いの百十郎桜が「さくら名所100選」に選ばれているなど自然豊かな都市です。名古屋市から30km圏内にあり、昭和40年代後半から50年代前半にかけて、ベッドタウンとして人口が急増しました。

一方、市中心部には国内に現存する飛行場では最も古い歴史を持つ航空自衛隊岐阜基地があり、主要産業は航空・宇宙産業のほか自動車関連産業・製薬業などで、岐阜県下トップの「ものづくりのまち」といった一面もあります。

平成16年度には木曽川の川中島である川島町と合併

しました。木曽川は県境にもなっている日本有数の大河ですが、その木曽川に標準幅員17.1m、橋長594mの各務原大橋を市事業として施工するという大型プロジェクトにも果敢に取組、平成25年3月24日から供用開始しました。

今年は市制施行50周年の節目の年を迎えます。この節目の年に、人を思いやり助け合う心、古来より日本人が強みとしてきた「ささえ合う心」に着目し、人と人、家族、地域の繋がりを促す「市制施行50周年記念」事業を、また、郷土愛を育む・都市の魅力を発信し、新たな人々を呼び込む「各務原ブランド」推進事業と共に積極的に展開し「ささえ合う都市」の実現を目指しています。

各務原市の概要



人口	145,604人(平成22年度国勢調査)
面積	87.77km ²
普通会計歳入決算額	459億1,077万5千円(平成23年度決算)
普通会計歳出決算額	427億9,720万3千円(平成23年度決算)
標準財政規模	261億7,583万6千円(平成23年度決算)
財政力指数	0.909(平成23年度決算)
実質公債費比率	2.0(平成23年度決算)
市HP	http://www.city.kakamigahara.lg.jp/



▲さくらの名所100選 百十郎桜



▲各務原大橋



▲中山道鶴沼宿

資金調達の現状とカイゼン活動(問題意識)

当市では、資金の指定がある場合を除き、一般会計で発行する地方債の全額を民間金融機関から調達しており、それらの借入利率は入札で決定しています。そうした中、当市ではカイゼン活動に力を入れており、今年度は借入条件の設定内容について見つめ直すことをテーマにしました。「なぜ元金均等償還なのか」、「なぜ据置期間が一

償還方式 ▶ 「将来にツケを先送りしない」という市の方針に合致しているため、引き続き元金均等償還を継続する。

償還期間 ▶ 当市発行の主な地方債は、20年債(10年後利率見直し)、15年債(7年後利率見直し)であり、利率見直しがあるため実質的に10年債、7年債、8年債を発行していることになり年数的にバランスが取れている。5年債、10年以上債の活用は、導入メリット、金融機関の反応を検証することとし、引き続き導入について検討する。また、当市では平成26年度に公債費の支払金額がピークを迎える。その後、急速に償還金が減少していくことから、ピークアウト後は、20年債(10年後利率見直し)から10年債など短期の固定債へシフトする方向で検討する。

律3年なのか」、「他市でもっと先進的な取組が行われていないか」といった疑問を一つひとつ確認する作業を始めました。簡単にカイゼン活動の一例を紹介します。

カイゼン活動を通じ、自分たちのやり方を見つめ直すことができ、すぐにできること、ある時期が来たら取り組むこと、まだまだ詳細な議論が必要なことを確認しました。

利率見直し ▶ 現状では金融機関と個別の交渉により決定することになっているが、当初借入時に見直し時点の利率を仕切るルールを約定に盛り込む方向で検討する。また、短期の固定債へシフトすることも検討する。

発行時期 ▶ 金利変動リスクを分散する観点から借入時期の分散(9月・12月・3月・5月)の実施について、金融機関の反応を検証することとし、引き続き導入について検討する。

据置期間 ▶ 元金均等償還を採用している点と整合を図ること、元利償還金のトータルコストを抑える点から、一律3年で設定している据置期間を廃止する。

利率見直し交渉

カイゼン活動のほか、平成24年度の資金調達業務の中で大きなウエイトを占めたのが、金融機関との利率見直し交渉でした。金利変動リスクを軽減するため、過去に償還期間の中途中で、交渉により金利を見直す特約を結んで調達した資金の、本格的な利率見直し交渉を直近に控え、利率を適正に評価できる知識が必要でした。

そこで、地方公共団体金融機構の出前講座を活用して金融知識の習得に着手しました。これまで右肩下がりで借入利率が下がっていた結果のみで、感覚的に「良し」と判断していましたが、定量的に「良し・悪し」を判断できるようにならないと、利率を適正に評価することもできませんし、

妥結する利率の良否の見極めもできません。

一例ですが、講座でスプレッドの計算方法を学び、借入時期や償還年数などが違う利率の適正な比較ができるようになり、「基本的なことが理解できれば、自分たちでも色々な検証ができそうだ。」という自信がつきました。

その結果、あらかじめ市の考えに基づく見直し利率を設定して金融機関に提案する形で交渉を進めることができました。

また、習得した知識を内部で継承していくことも重要で、予算編成等と同様に資金調達業務を主要業務に位置付け、体制強化を図っていきます。

終わりに

金融機関との利率見直し交渉を通じて感じたことは、今まで以上にコミュニケーションの強化が必要だということです。会話の中で「地方債の発行額や時期などの情報を3ヵ月程度前に欲しい」、「支店としては市の財政状況などを本店に稟議を上げる際に有効な情報をもっと欲しい」というような本音や、本店と支店の仕切りレートが毎週変わる金融機関もあれば1ヵ月間固定というところもあることを知りました。こうした生の声を聞くことができたのは、ある程度の金融知識ができ、対等に議論ができたためであり、その

点でも講座で得た知識は大きな「武器」になりました。

予算編成では、予算措置をするまでに事業課職員に事業効果、所要額の積上げ根拠などを厳しく求めますが、それと同じで、財政課職員も自らの業務の中身をしっかりと把握する必要があります。今回の取組の経験を活かし、今後も借入業務のカイゼン活動を継続すると同時に、他の業務も含め、それらを一つずつ見つめ直していく必要があると感じた1年でした。

お手伝いします!



地方支援を利用してみよう!

vol.6

初めて

資金調達入門研修を開催しました

平成25年度から、主に自治体の資金調達に初めて携わる職員を対象とした入門的な研修会を、全国2箇所(4/19:兵庫会場、4/26:福島会場)で開催し、173名の方に受講いただきました。その様子を紹介します。

プログラム (講義時間 4時間20分)

I	お金の借り様と財政運営 借金以外の収支であるプライマリーバランスを通じて、自治体にとって借金と上手に付き合う方法を解説	10:30~12:00 (90分)
II	自治体にとっての借金(地方債・一時借入金)の鳥瞰図 地方債に係る制度や法令を通じて、地方債の全体像を解説	13:00~14:00 (60分)
III	借入期間と借入利率の関係 ~借入期間が違うと、利率も違う?~ 債券の「利率」と「利回り」の違いを通じて、流通市場の利回りが自治体の資金調達に与える影響を解説	14:00~14:40 (40分)
IV	償還方法と借入利率の関係 ~借入期間が同じなら、利率は同じ?~ 定時償還と満期一括償還の違いを通じて、金融機関からみた定時償還の利率決定方法を解説	14:50~16:00 (70分)

※講義時間は福島会場のものです。

※テキストは、HPで公開しています。

兵庫会場

会場：兵庫県民会館（神戸市）

4/19

受講者
115名

近畿地方だけではなく、中国・九州地方などからも多数の方にご参加いただきました。なぜ資金調達について学ばなければならないのかということから、自治体にとっての借金の全体像、借入期間や償還方法と借入利率との関係などについて、わかりやすく解説しました。

ホームページもぜひご覧ください

これまでの実績紹介や参加者の声、出前講座や
実務支援の詳しいご紹介などを掲載しています。
是非ご覧ください。

JFMホームページ

<http://www.jfm.go.jp/>

地方公共団体金融機構

検索

4/26

受講者

58名

福島会場

会場：ホテル福島グリーンパレス（福島市）



福島会場には58名の方にご参加いただきました。兵庫会場と同様、熱心に受講いただき、質問もいただきましたなど非常に充実した研修となりました。今回の研修をきっかけとして、お困りのことやお悩みがございましたら是非お気軽に地方支援業務をご活用ください。

○○会場

追加開催 募集中！

今年度は、兵庫、福島会場の2会場のほかに、もう1会場での開催を予定しています。
皆様からのご要望をお聞きして開催地を決定いたします。

参加者の声



長久手市財政課 藤井さん

利率と利回りの違いや、満期一括、元金均等、元利均等償還の借入利率がなぜ違ってくるのか等を、分かりやすい図解で説明してもらえたので視覚的に理解できました。

これを機に金利決定の仕組み等を更に学んで業務に生かしたいと思います。



滋賀県市町振興課 川尻さん

資金調達について財政の部分だけでなく、馴染みの薄い金融のことまで具体的な例を用いて説明していただいたので、大分分かりやすい研修でした。
他の研修や出前講座なども利用してみたいと思います。



伊達市財政課 宍戸さん

起債事務担当者が身に付けるべき知識の方向性が財政・金融の両面から示され、大変参考になりました。また、参加者の皆さんのお意欲の高さが感じられ、刺激を受けました。

お問い合わせやお申し込みはこちら

地方支援部 調査企画課 / ファイナンス支援課
03-3539-2676 chihoushien@jfm.go.jp

基金運用
ひとくちメモ
—第5回—

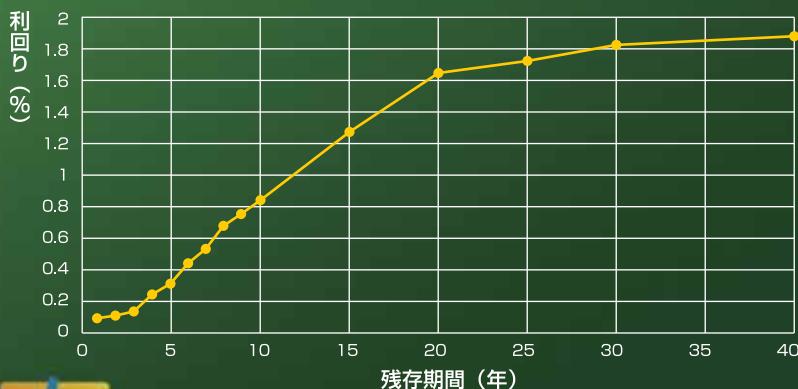
果実運用型基金の運用のポイントとは? ～「いつまで、いくら取崩しできないか」の見極め～

運用益を財源等に充てるために積み立てた資金(果実運用型基金)については、一般的に、「運用期間が長いほど、利回りが高くなる。」という関係が成り立つことを考慮して、可能な限り償還期間が長い債券による運用(長期債運用)を行います。

右の図のように、債券の満期までの期間(残存期間)と利回りとの間には、一般的に、「残存期間が長くなるほど、利回りが高くなる。」っていう関係が成り立つんだ。



<債券の流通市場における、国債の残存期間と利回りの関係>



*財務省「国債金利情報」本年6月6日のデータを基に作成。

図1 地域振興基金の取崩可能額

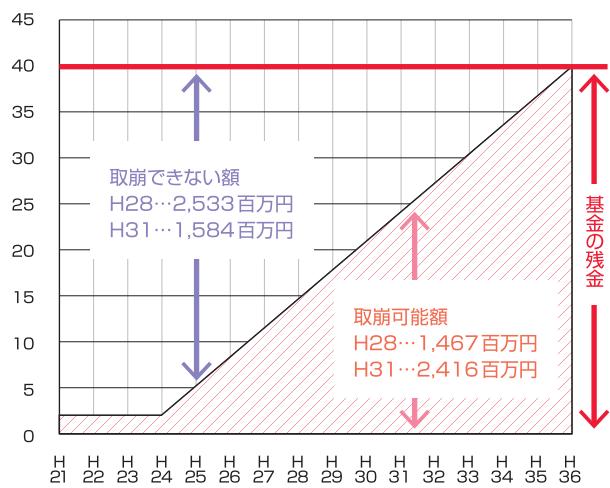
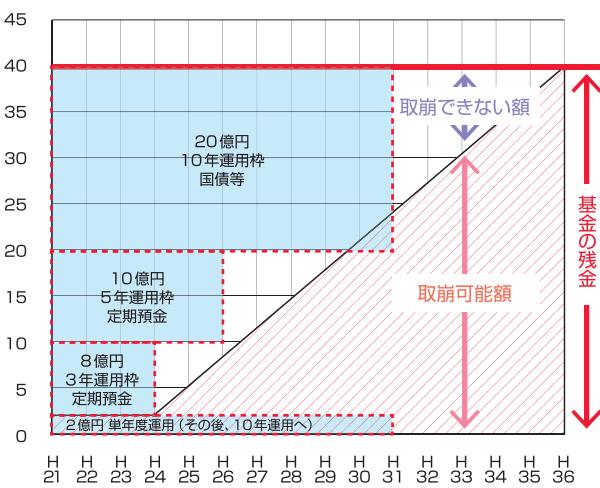


図2 地域振興基金の運用フレーム



山形県鶴岡市では、合併特例債を活用して造成した「地域振興基金」(果実運用型基金)の運用にあたって、まずは図1のように「いつまで、いくら取崩しできないか」を見極めたんだ。

その後、図2のように「取崩しできない期間と金額」に応じて複数の「運用枠」を設定して、それぞれの運用枠ごとに可能な限り償還期間が長い債券や預金で運用することで、「運用開始時点で見込める最も高い利回り」を確保したんだ。



Q

「一般的に、残存期間が長くなるほど、利回りが高くなる」という関係が成り立つのは、どうして？

A

このような関係が成り立つ理由を説明する代表的な仮説として、「流動性プレミアム仮説」というものがあります。

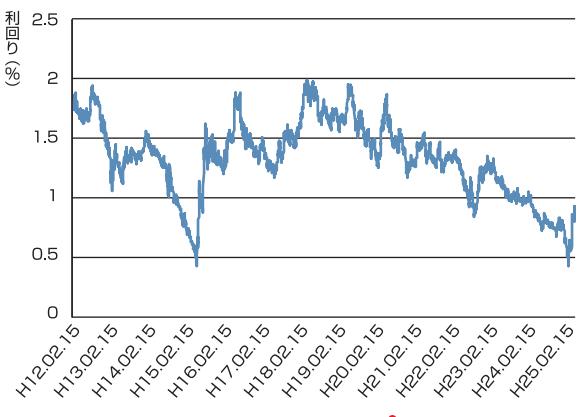
これは、「債券の価格は残存期間が長いほど大きく変動しやすい性質があるため、もし残存期間の長い債券と短い債券とが同じ利回りならば、多くの投資家は債券の価格が変動する可能性の低い後者を好むはず。したがって、残存期間の長い債券を保有しようとする投資家は、残存期間の短い債券よりも高い利回りを要求する。」というものです。



*財務省「国債金利情報」を基に作成。

Q

平成12年1月以降の残存期間10年の国債の利回り推移(右の図)を見ると、現在は10年ぶりの低い水準となっていることがわかります。このような時に、預金などでしばらく運用し、利回りが高くなつてから債券に切り替えるのが良いように思いますが、どうでしょうか？



A

確かに、そのような考えにも一理あると思います。しかし、運用期間中に必ず利回りが上昇して、「現時点で、取崩しきれない期間いっぱいの期間の債券で運用する」よりも高い利回りが結果として確保できるかは、現時点では誰にもわかりません。

「現時点で確実に得ることのできる最も高い利回り」を取るか、「それよりも低い利回りに終わるリスクもあるが、それよりも高い利回りを獲得できる可能性」を狙うかですが、後者はまさに「リスクを取る」ことに他なりません。このようなリスクを取るか否かについて、十分にコンセンサスを形成したうえで判断するべきと考えます。





自治体や地域住民に貢献する公営競技

今回は東京都の11の市が共同で主催する京王閣競輪場の取組を紹介します。企画面においてさまざまな工夫を凝らして“競輪の魅力”を発信。若い世代にアピールする、その取組の舞台裏を紹介します。

第4回

女性ファンを競輪場へ誘え!^{いざな}

京王閣競輪のマーケティング戦略



競輪の魅力を若い世代へ伝えたい

東京都調布市にある京王閣競輪場^{*1}は、東京都十一市競輪事業組合^{*2}が主催する競輪場です。1949年9月に開設し、都心からの利便性もあったことから常にファンでにぎわい、1972年には、1日の入場者数としては史上最高の7万2,657人を記録。現在は、競輪業界のマーケットサイズが縮小するなかで苦戦をしいられていますが、さまざまな経営努力によって毎年の黒字化を実現しています。

「しかし、守勢一方では将来にわたる事業の持続性は担保できません。本質的な問題は、競輪の車券購入者の固定化・高齢化^{*3}が進む一方、新規顧客の獲得が伸び悩んでいるため、ファン数の減少に歯止めがかかっていない点にあり、この課題を解決することが急務です」(東京都十一市競輪事業組合 担当者談。以下、「」内のコメント全て)。

このような問題意識をもつ京王閣競輪では、以前から若い世代を中心とした新規ファン開拓に積極的に取り組んできました。

たとえば、2012年には短編競輪小説「第2回京王閣競輪場物語」^{*4}の一般公募を実施。これは、競輪の魅力をファンの視点で小説化してもらい、幅広い人たちに伝えようという試みです。また、第2回の最優秀賞作品を人気漫画家^{*5}の手により劇画化して一般配布することで、若い世代へアピールする情報発信も行いました。

「競輪には、鍛えぬかれた肉体を駆使して競い合うスポーツ性や、展開や駆け引きを予想する頭脳ゲームの側面があります。また、ファッショナブル性、メカニック面など、実は幅広い魅力をもった競技なのです。そうした魅力を漫画というメディアを通して若い方に知っていただきたいと思いました」



女性限定「ガールズケイリン観戦ツアー」を開催

2012年7月からは、女性限定の初心者向け競輪体験イベントを企画。48年ぶりに復活した女子競輪の開催にあわせた「ガールズケイリン観戦ツアー」(通称「女子会」)を定期的に開催しています。

(※1)【京王閣競輪場】通称は「東京オーヴァル京王閣」(TOKYO OVAL KEIOKAKU)

(※2)【東京都十一市競輪事業組合】八王子市、武藏野市、青梅市、昭島市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市の11市で構成

(※3)【競輪ファンの固定化・高齢化】競輪のファン層は、他の公営競技と比較すると平均年齢が高い。特に競輪場来場者の約半数は、60歳代以上と言われている。財団法人JKAの調査によれば、競輪場来場者の平均年齢は、平成3年度は49.8歳であったが、平成21年度では57.0歳となっている。

「特別来賓席でのレース観戦、女性講師による初心者教室、迫力のバンク内観戦などのコンテンツで競輪を楽しんでもらうとともに、競輪場内の飲食店や調布市の有名スイーツ店のご協力を得て、フード面のおもてなしも忘れません(笑)」



参加者の反応も上々で、『競輪は、おじさんが好きなギャンブルでちょっと怖いイメージがありましたが、ガールズケイリンの選手を間近で見たらすごくカッコよくて迫力に驚きました』『お腹も心も満たされました!』など、競輪の魅力を満喫してもらっているようです。

しかし、「女子会」により女性ファンの獲得に成功する一方、イベントの改善点も見えてきたといいます。

「応募者が固定化し、新規の応募が頭打ちになりつつあります。告知方法が11市のHPや関連スポーツ紙のみでしたから、どうしても知る人が限定されてしまうのです。そのため今開催(第7回)では、20代の女性に人気のファッショニイベント『東京ガールズコレクション(以下、TGC)』^{※6}とのコラボレート企画を新たに実施。TGCのファッショニモデルのみなさんに『女子会』に参加していただき、その感想を彼女たちのブログなどを通じてレポートもらうプロモーション施策を取り入れました。

モデルのみなさんの反応はみなユニークで、『ガールズケイリンの選手の勝ったときの笑顔がかわいい!』『自転車がキレイ!』『燃えました!いや、まだ楽しかったです!』など、20代女性ならではの視点やコトバで競輪の魅力を表現してくれました。彼女たちの情報発信を通じて、口コミが広まり、ケイリンの魅力が新たな潜在ファンへ伝わっていくことを期待しています」

現在、京王閣競輪では、『東京蚤の市』や『フリーマーケット』の開催など、競輪場の多目的利用も進めていますが、そのような視点からも、まだまだチャレンジできることは多いといいます。

「たとえば、近年の自転車ブームの影響もあって多摩川サイクリングロードに隣接している京王閣競輪場の周辺は、休日になるとたくさんのサンデーサイクリストで賑わいます。京王閣競輪が、こうした方々の『自転車の道の駅』のような役割を担っていければ素晴らしいですね。」

新規ファン獲得の取組は、一朝一夕に成果が出るものばかりではありませんが、今後も競輪場のさまざまな楽しみ方を開拓し、競輪未体験のみなさんと競輪の魅力をつなぐ、いろいろな挑戦を行なっていきます。」



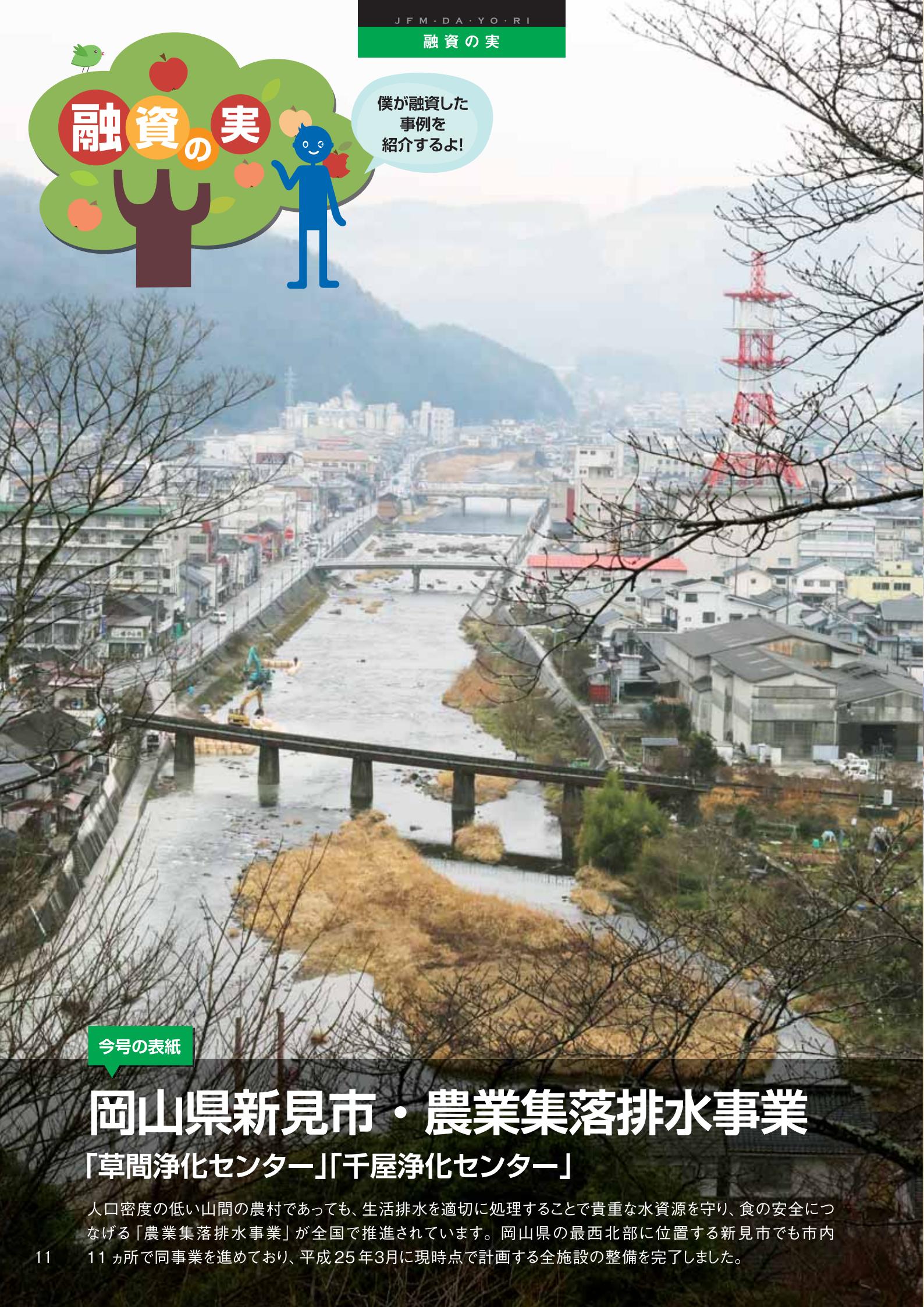
ガールズケイリン観戦ツアーは四季折々のテーマに合わせて
おいしい食事やお酒とともに、競輪を体験できる。
選手と記念写真もいい思い出に。



(※4)【第2回京王閣競輪場物語】さまざまな人間模様が交錯する舞台「KEIRINグランプリ」をテーマに、時代性、社会性、娛樂性を兼ね備えた文芸作品を募集。入賞作品は京王閣競輪のホームページで読むことができる。

(※5)【江川達也】人気漫画家。代表作に『まじかる☆タルルートくん』、『東京大学物語』などがある。書籍の執筆ほか、テレビ番組のコメンテーター、俳優、映画監督としても活躍。

(※6)【東京ガールズコレクション】「日本のリアルクローズを世界へ」をテーマに2005年8月から年2回開催している、史上最大級のファッショニフェスタ。トレンドに敏感な女の子たちへ最旬のファッショントレンドを発信している。



今号の表紙

岡山県新見市・農業集落排水事業 「草間浄化センター」「千屋浄化センター」

人口密度の低い山間の農村であっても、生活排水を適切に処理することで貴重な水資源を守り、食の安全につなげる「農業集落排水事業」が全国で推進されています。岡山県の最西北部に位置する新見市でも市内11カ所で同事業を進めており、平成25年3月に現時点で計画する全施設の整備を完了しました。



市内 11 カ所で進めてきた農業集落排水事業

岡山県の西北端部に位置する新見市は、平成17年3月に旧新見市、大佐町、神郷町、哲多町、哲西町の1市4町が合併して誕生しました。鳥取県および広島県の県境に接する一帯は阿新地域とも呼ばれ、平安時代に最勝光院領、のちには京都東寺の荘園「新見庄」となり、古くから鉄や漆、紙などの生産で栄えてきました。

市の中央部を北から南へ縦断するように流れる高梁川は、岡山県の三大河川の一つに数えられる重要な川で、その最上流域にあたる新見市は、自らの主要産業である農業のためだけでなく、清浄な水

を下流へそのまま届けるためにも水資源の保全に力を注いきました。岡山県のクリーンライフ100構想に基づいて汚水適正処理構想を策定し、人口の密集する市街地には公共下水道を整備とともに、地域の特性によって農業集落排水、小規模集合排水処理、合併処理浄化槽などの生活排水処理事業を推進。このうち、一定の規模を伴う農業集落排水は11カ所で実施しており、平成25年3月に上熊谷浄化センターが供用を開始したことで、構想に盛り込んだ農業集落排水事業のすべての整備を完了しました。

ブランド和牛「千屋牛」の里の水資源を守る

農業集落排水事業は、地方自治体が事業主体となり、農林水産省の補助により進められますが、新見市の二つの事業で、その財源としてJFMの融資が活かされました。

一つは、北部の山間地にある「千屋浄化センター」。計画処理人口は40戸150人、管路延長約2kmのコンパクトな事業で、浄化施設も上屋を設けないシンプルなものとなっており、平成21年10月に供用が開始されました。千屋地区はまさに高梁川の源流にあたり、1800年頃から荷役や農耕に用いる牛の改良・増産に取り組んできた歴史を活かし、今では食用ブランド和牛「千屋牛」の生産・普及に力を注いでいます。

もう一つは、市の南東部にある「草間浄化センター」です。こちらは計画処理人口76戸430人、管路延長約7.5kmと規模が大きく、平成19年3月に供用が始まりました。一帯はピオーネ（大粒の種なしぶどう）や桃、そばなどの生産が盛んで、草間カルスト台地に点在する大型の鍾乳洞は、岡山県の指定天然記念物にも指定され観光名所となっています。

農業集落排水事業は、食の安全を守るためにも積極的に推し進めている事業です。また、水洗トイレの普及をはじめとする水回りの利便性向上にもつながり、過疎化が進む農村生活の魅力を高めるものとしても期待されています。

岡山県新見市データ

新見市は、岡山県の最西北端、高梁川の源流域に位置し、東は真庭市、南は高梁市に、そして北は鳥取県日野郡、西は広島県庄原市に接しています。

新見市の面積は、793.27km²で岡山県の11.2%を占め、全域が中国山地の脊梁地帯に属するため起伏の多い地形で、総面積の86.3%の684.31km²を森林が占めており、耕地は5.8%の45.78km²となっています。

総人口

32,812人

(2013年5月末現在)

新見市のシンボルとシンボルキャラクター

千屋牛

日本最古の蔓牛(つるうし)の系統をひく伝統ある黒毛和種で、平成19年6月に商標登録認定を受け、“千屋牛ブランド”の確立に向け鋭意取り組んでいます。



アテツマンサク(花)

市指定天然記念物であり、新見市で原木が発見されました。

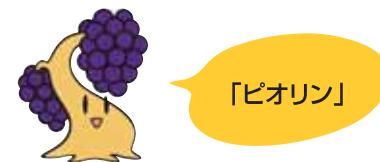
名称に「アテツ」を含んでおり、市内に多く自生していて、春を告げる花として市民に親しまれています。



ピオーネ(葡萄)

新見のピオーネは、大きな粒とすばらしい色づきが特徴で、味は強い甘みとほどよい酸味のバランスが絶妙です。

高品質なので、県内はもとより、東京や大阪などのデパートや大手スーパーなどで販売されています。



新見市ホームページ

<http://www.city.niimi.okayama.jp/>

人事交流日記 第6回

島根県庁から派遣 企画課 谷口 耕平

島根県庁から派遣でJFM2年目になります。
経営企画部企画課に所属し、広報関連業務や予算・方針等のとりまとめなどを担当しています。

全自治体の出資による、地方のために地方が運営する当JFMについて、自治体の皆様方をはじめ、全方位に広くご紹介出来ればと業務に取り組んでいます。本誌についても編集を担当していますので、ご意見やご感想、掲載してほしい内容、取材してほしい内容がございましたら「ぜひ!」声をお寄せください。お待ちしています。



堺市役所から派遣 資金課 松井 阳介

大阪府堺市からJFMに派遣され2年目となりました。

現在は資金部資金課に所属しています。

当課は、債券を発行し安定的に資金を調達することを業務としています。

取り扱う資金が多額であるため、持ち込んだ電卓は桁不足により使用できませんでした。

日々、金融機関の方々と話をしているため、「恐縮です!」というような、今まで自分の口から発したことのないような言葉を自然と使いこなしている事に気付いた時は、東京人の仲間入りをしたような気がしました。

最近では、「関西人には見えない。」とよく言われます。恐縮です!

茨城県庁から派遣 調査企画課 大塚 智也

茨城県からJFMに来て2年目になります。

地方支援部では、地方公営企業会計制度見直し支援業務や主要経済指標データの作成などを担当しています。金融や企業会計の複式簿記など、今まで馴染みのなかったものに触れる機会が多く、いろいろと勉強させてもらっています。

また、JFMには自治体などから派遣で来ている方が多く、異なるバックグラウンドの方々と一緒に仕事をするなかで、日々刺激を受けながら、楽しく過ごしています。

JFMで学んだ知識や経験、人とのコネクションなど、茨城県に戻っても役立てていきたいです。



長崎市役所から派遣 融資課 倉富 雅也

長崎市から2年間の派遣で赴任し、折り返しの1年が経過しました。

融資課では、将来における貸付見込や貸付計画の策定等を担当しています。

見込・計画の精度を上げるために、資金を借り入れる地方公共団体の要望把握や国の政策等の情報収集が欠かせませんので、常にアンテナを張り、機動的に対応できるよう心掛けています。

地方公務員の立場からすると、JFMは様々な機関や全国各地の団体の方と接する機会が多くあり、その度に良い刺激や新しい発見に出会えることは貴重な経験です。

計画的な資金運用にJFM債の活用を!

- JFM債の購入資金は、地方公共団体へのご融資を通じて、地域に還元されています。
- 安全で効率的な運用のお手伝いをします。
- 定期的に発行している10年債、20年債のほか、運用ニーズ(金額、期間等)に応じた債券を随時発行しています。

※ご購入にあたっては、お近くの証券会社にお問い合わせください。

私たちも!
JFM買ってます!



川崎市資金課の
山本さん

川崎市では、毎年一定規模の市場公募債を発行しており、今後も減債基金残高の増加が見込まれるため、目下の金利動向や経済情勢を踏まえつつ中長期的な視点から、確実かつ有利である債券運用を行っております。中でもJFM債は、安全・有利かつ市場流通性が高い債券であり、運用商品の一部として活用しております。

川崎市では、環境の変化に的確かつ機動的に対応しながら、144万市民がいきいきと心豊かに暮らせるよう、「元気都市かわさき」の継続に向け、また、本市が将来にわたり持続的に発展するよう、川崎の「新たな飛躍」に向け、様々な取組を進めております。そうした取組を支えるため、JFM債の運用益を活用してまいります。

JFMからのお知らせ



写真募集中

JFMでは、広報誌の表紙や、ホームページのトップページに掲載する写真を募集しています。



<http://www.jfm.go.jp/>



JFMに対するご意見をお寄せください

「がんばる公営競技」のコーナーにつきまして、皆様からの記事募集を行っています。
また、他のコーナーにつきましても、JFMだよりへの掲載希望や内容に関するご質問をお問い合わせしています。



ご連絡先
経営企画部企画課広報担当
TEL:03-3539-2674
mail : info@jfm.go.jp